

御 館 中



学校だより

郡山市立御館中学校

平成 24 年 3 月 23 日発行 特別号

文責 校長 塚本 英樹

平成 23 年度 学校評価（後期）について

10月に中間評価を実施しましたが、今回、前期との比較も含め後期の学校評価を行いました。本校の「学校経営・運営ビジョン」の重点目標の達成具合について、生徒及び保護者に実施したアンケートの結果を参考にしながら教職員で自己評価を行いました。保護者の皆様には年度末のお忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。

その後、去る3月21日に、学校評議員、小学校校長、PTA三役による「学校評価委員会」を開催し、「自己評価の結果と今後に向けて」に対するご意見をいただきました。その内容は以下のとおりです。

この結果やご意見について、来年度の計画等に取り入れていくものがありますので、それを十分に検討し学校経営・運営に生かしていきたいと考えます。

<自己評価の結果と今後に向けて>

◎教育目標「夢」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「『夢』を持ち、学習する目的をはっきり言うことができるようになった」については、全学年で生徒及び保護者とも前期に比べ評価が高くなった。	・3年生は、進路指導に向け、個に応じたよりきめ細かな指導の結果、目標をしっかりと定め、集中して学習活動に取り組めたためと思われる。 ・1、2年生に関しては、そうした3年生の姿や進路を意識した各学年の指導により、より具体的な目標をイメージできるようになってきたためと思われる。今後も生徒の可能性を広げる指導を心がけながら、夢が持てる計画的なキャリア教育を実践していきたい。

☆「確かな学力の育成」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○前期に引き続き、「授業を通して、わかる・できる喜びを感じ、力が付いている」、「選択教科に積極的取り組み、技能向上・学力向上に努力している」に対する生徒自身の評価が高かった。また、「生活記録ノートを活用し、忘れ物をなくすとともに文章表現を伸ばすこと」や「課題テーマ計画表に意欲的に取り組ませ、家庭学習習慣を身につけさせること」、「総合的な学習の時間で、歌舞伎学習、発表などに意欲的に取り組ませること」に対する評価が保護者・生徒ともに高かった。学年や項目によって多少差はあるものの全体的に前期に比べ評価が高まっている。	・前期の反省に基づき、教職員一人一人が生徒に力をつけさせるための指導を継続して積み重ねてきた結果と考える。今後も、授業を学校生活の基本に据え、1時間1時間の授業を大切にしながら、生徒の力を伸ばしていきたい。
●「子どもにあった学習方法を個別に指導すること」に対する保護者の評価が分かれた。また、教職員の評価も前期に比べ低くなった。	・学習形態を工夫するなどして、授業の中でも個別指導ができる時間を確保したり、年間を見通し各教科で個別指導ができる時間を洗い出すなどして、個に応じた指導を進めていきたい。

☆「表現力の育成」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「自分の考えを持ち、思っていることを人に伝えることができるようになってきている」について、生徒・保護者ともに前期に比べて評価が高かった。	・授業をはじめ生活記録ノートの活用により文章表現力を伸ばす取り組みや、各教科や総合的な学習の時間の歌舞伎学習、学校行事、集会など様々な機会に発表の場を設けて表現力の育成に努めてきた結果と考える。今後も少人数のよさを生かし、全教育活動を通して生徒の表現力の向上に努めていきたい。

☆「自律心の育成と健やかな心身の鍛練」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「部活動に積極的に参加し、技術の向上を目指すとともに、自己管理にも気を配るよう指導する」については、前期同様生徒・保護者ともに評価が高かった。	・今後も少人数のよさを生かし、一人一人に目を向けながら、技術の向上はもとより、心身ともに健康な生徒の育成に努めたい。
●「心身ともに健康で、何事にも積極的に挑戦し、試練に耐えることができるようになってきている」については、前期同様評価がやや低かった。	・自分のよさに気づかせ、自信を持たせ、何事にも積極的にチャレンジする意欲を育てていくことを基本としながらも、時と場によって、なれ合いにならず、競い合いながらお互いを高めていく厳しさも教えながら指導にあたっていきたい。

☆「奉仕の精神の涵養」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「奉仕の心を持ち互いに協力し、助け合いながら進んで社会に奉仕しようとする姿になってきている」の評価は前期に引き続き高かった。	・「日直や奉仕委員会などのやるべき仕事を忘れずに行っている」の生徒の自己評価が前期同様高く、自分の仕事に責任を持ってしっかりと行うことができている。今後は、与えられた、決められた活動を進めるだけでなく、自分たちで気づき、考え、決めた活動を行えるよう、委員会活動の場を工夫するなどしていきたい。

※ その他

「子どもは、明るくさわやかなあいさつをすることができる」について、保護者の評価が前期に比べ高くなった。特に、3年生の自己評価については、面接指導などによりあいさつの重要性に気づき、日常の行動に結びついたと思われる。今後は1・2年生についても更に意識を高め、実践に結びつくよう指導していきたい。

<学校評価委員の主な意見>

- 子どもたちが自分の道を見つけ、目標を高く持ち、それに向かって力をつけていけるよう指導をお願いしたい。
- 夢や目標がすぐに決まる子どもとそうでない子どもがいるので、中学校のうちに自分の目標が定まるようアドバイスをお願いしたい。
- 最初は小さな目標でもよいので、いろいろな体験をする中で、より大きな目標がつかめるようになればよい。
- 学習に関して、自分から積極的に質問することができない子どももいるので、意図的に場と機会をつくってもらえるとありがたい。
- インターネットや携帯電話、ゲームなどの普及により、本や新聞を読まない子どもが多い。読書の大切さを学校でも重視していかなければならない。

※ 上記のとおり、「子どもたちの夢や目標に関すること」や「学習や読書に関すること」などについてのご意見をいただきました。このほかに評価結果や実践事項、学校の実態などについての質問も多く出されました。ご意見は今後十分に生かしていきたいと思っております。ご出席いただきました学校評価委員の皆様、ありがとうございました。